

令和4年8月22日（月曜日）

教育、民生常任委員会会議録

教育、民生常任委員会会議録

令和4年8月22日（月曜日）

出席委員（6名）

委員長 柳 田 政 喜 君

副委員長 伊 藤 牧 世 君

委員 平 吹 俊 雄 君

鈴木 恵 悦 君

吉 田 二 郎 君

村 松 秀 雄 君

欠席委員（なし）

議長 鈴木 宏 通 君

美里町社会福祉協議会出席者

会 長 黒 沼 篤 司 君

事 務 局 長 山 口 保 広 君

地 域 福 祉 課 長 永 沼 威 雄 君

総 務 課 長 佐々木 孝 彦 君

主 事 田 村 紗 希 君

生活支援コーディネーター 高 橋 ゆかり 君

議会事務局職員出席者

次長兼議事調査係長 齊 藤 美 穂 君

令和4年8月22日（月曜日） 午前9時25分 開会

1. 開会

2. 挨拶

美里町議会 教育、民生常任委員会 委員長 柳田政喜

社会福祉協議会 会長 黒沼篤司様

3. 出席者紹介

4. 意見交換 「町の健康づくり」

(1) 美里町社会福祉協議会が取り組む健康づくり事業について

(2) 地域活動と美里町社会福祉協議会の関わり方について

(3) 意見交換

5. 挨拶

美里町議会 教育、民生常任委員会 副委員長 伊藤牧世

6. 閉会

午前9時25分 開会

○事務局次長兼議事調査係長（齊藤美穂君） 少し時間は早いのですが、皆さんお集まりのようですので、町の健康づくりに関する意見交換会を始めさせていただきます。

まずは、教育、民生常任委員会柳田委員長、御挨拶をお願いいたします。

○委員長（柳田政喜君） 本日は大変お忙しい中、こういう貴重な場を設けていただきというか要望に応じていただき、開いていただき本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さらに、ふだんから町民の健康、福祉向上のために社会福祉協議会さんにおかれましては、町の委託事業または独自の事業により、大変町民のために活動していただいていること、改めてお礼を申し述べさせていただきます。本当にありがとうございます。

そういった中、本日お邪魔させていただいていただいているメンバーで、今年の2月から教育、民生常任委員会の活動を始めさせてもらいました。そういった中、毎回常任委員会ではテーマを決めて活動調査をして提言していくということになっていますので、そちらのほうで、今回は健康で長生きするためというテーマの下、活動をさせてもらっているところでございます。そういった中、最近全国的に、高齢化・核家族化が進みまして、独居の方もしくは高齢者の方だけの家族というのが大変増えている状況にございます。そういった方々がこのコロナ禍によって、なおさら活動も制限されて、どのような生活をされているのかというのは、大変委員みんなで危惧したところでございます。そういった意味も含めまして、今回ちょっと広めにテーマを決めさせてもらいまして、活動、研究させてもらっているところでございます。

7月20日には、担当課と意見交換、交流を行いまして、その中でお聞きした中で、やっぱり現場のことは社会福祉協議会さんのほうがよく分かるということで、委員のほうから、ぜひ社会福祉協議会さんのほうと同じように意見交換をしたいという声が大変多うございまして、それで今回の件をお願いしたところの経緯でございます。

本日はざっくばらんに、一応今回、記録を残すためにも録音をさせてもらっていますけれども、要点筆記になりますので、言いたいことをぜひ言っていただきたいなと。私たちもどうしても資料でしか中身が分からないことが多いものですから、本当の現場の声を聞きたいと思っていますので、ぜひ本日はざっくばらんな意見交換ということでよろしくをお願いしたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局次長兼議事調査係長（齊藤美穂君） 続きまして、社会福祉協議会会長の黒沼篤司様より御挨拶をお願いいたします。

○社協会長（黒沼篤司君） 町議会の皆様おはようございます。

美里町社協は、昨年度、第4次地域福祉活動計画を立てまして、今年4月からそれを基本に事業を進めているところであります。今日は正職が5人来ておりますので、どうぞざくばらんに質問なり意見を言っていただけたらいいなと思っております。私も、会長をやって2年になりますが、途中でちょっと病気で抜けたりなんかもしましたけれども、何とか務めているところであります。今日はひとつ最後までよろしくお願いしたいと思います。

○事務局次長兼議事調査係長（齊藤美穂君） それでは、出席者の紹介のほうを。まず、社協さんのほうからお願いいたします。

○社協事務局長（山口保広君） 改めましておはようございます。事務局長の山口でございます。今日は本当にお越しいただきましてありがとうございます。

まず、本日の意見交換会に出席しております本会関係者を紹介いたします。ただいま御挨拶を申し上げました黒沼篤司会長でございます。

それから、地域福祉課長永沼でございます。

それから、総務課長佐々木でございます。

それから、地域福祉課主事田村でございます。

同じく地域福祉課生活支援コーディネーターの高橋でございます。

それから、繰り返しになりますが、私山口、以上5名、あと会長と臨ませていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

○委員長（柳田政喜君） では、委員のほう自己紹介という形でよろしいですか。

○委員（鈴木恵悦君） 鈴木と申します。よろしく、お世話になります。

○委員（吉田二郎君） 改めまして、おはようございます。小牛田駐在所近くに住んでおります吉田二郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（平吹俊雄君） おはようございます。今日はどうもありがとうございます。不動堂5区の平吹俊雄です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（村松秀雄君） 役場すぐ近く、駒米です。村松です。よろしくお願いいたします。

○委員（伊藤牧世君） おはようございます。上二郷1行政区の伊藤牧世です。副委員長を仰せつかっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（鈴木宏通君） 皆さんが地名も言っていますが、小牛田境でございますが、古川の近くにある谷地地域の鈴木でございます。どうぞ本日よろしくお願いいたします。

○委員長（柳田政喜君） 私、中埜1区の行政区の柳田でございます。鈴木さんが議長でござい

ますので、ぜひよろしくお願いします。今回若返っておりますので、結構ざっくばらんに、なかなか知識も少ないところでもありますので、本当に意見を聞きたいと思っていますのでよろしくお願いします。

○事務局次長兼議事調査係長（齊藤美穂君） 本日、進行を進めさせていただいております事務局の齊藤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが4番の意見交換のほうに進めていきたいと思います。委員長、お願いいたします。

○委員長（柳田政喜君） ありがとうございます。

それでは、意見交換のほうに早速入っていくということですが、社協さんのほうから大変多く資料を作っていただきましてありがとうございます。大変これだけでも時間がかかったのかなと思っていますけれども、こちらのほうの説明のほうからお願いしてよろしいでしょうか。

○社協事務局長（山口保広君） 承知いたしました。では、恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、意見交換の前に、今回御用意いたしました資料に基づいて概要説明というところで説明させていただきたいと思います。

まずもって私のほうから、前段お話をさせていただきます。社会福祉協議会は、全国各市町村に設置義務化されている団体でございます。旧小牛田町社協につきましては昭和59年2月、それから旧南郷町社協につきましては昭和63年4月に法人化をいたしまして、それぞれそれぞれで属しておりました当該市町村の福祉行政の組織から独立したという経緯があります。そもそも社会福祉事業法を根拠に、全国市町村社協のほうに任意団体として設置されたのがそもそもでございますが、その後、約40年代後半から市町村社協法人化の波が全国的に進められまして、それに基づいて法人格を取得した流れがございます。

世の中のほうも、これまで福祉関係団体が地域福祉を推進するんだという流れの中から、そうではなくて、これからは地域住民が主体となって福祉を進めていかなければならないという時代の流れとともに、そのような法人化に至っていった経緯があります。とりわけ現在の根拠法でございます社会福祉法のほうでも、地域福祉の推進は地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら参加し、共生する地域社会の実現を目指していかなければならないとうたわれておりまして、まさに社会福祉協議会は当該市町村行政と共に連携しながら、その実現を目指して事業を展開しているところでございます。

お手元の資料の2ページ目になりますが、これは本会のまず運営理念として掲げておりますけれども、「みちかな地域の安心へ ささえあう手と手をつなぎあい」とともに築こう福祉のまち“みさと”」、これが本会の運営理念として掲げているものでございます。ある意味テーマでもございます。これに基づきまして、本年度の基本方針を毎年掲げさせていただいているところでございますが、中段には記載させていただいております。それに基づきまして、重点目標を5点ほど掲げております。いずれにいたしましても、先ほど会長も御挨拶で申し上げましたとおり、第4次美里町地域福祉活動計画に基づきまして事業を推進している中で、今年度につきましては1から5までの重点目標を掲げさせていただいているところでございます。

とりわけ2番目に掲げておりますけれども、福祉教育の推進や広報・啓発等による福祉意識の醸成が地域を変えていくんだということを念頭に置きながら、多様な活動主体の地域活動への参加を促し、また担い手の育成を行いながら、地域福祉推進の基盤の充実に努めているところでございます。

この後、今回テーマとしていただいております町の健康づくりに関することなどにつきまして、社協が推し進める健康づくりあるいは地域づくりについて、それぞれ担当のほうから詳細について説明をさせていただきたいというふうに考えております。

それでは、まず初めに永沼地域福祉課長のほうから、資料を基に具体的な説明に入らせていただきますので、よろしくお願いします。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） それでは申し訳ありません、私も着座のまま御説明させていただきますと思います。

今、山口事務局長のほうでお話ししました資料、ホチキス左上止めのものの一番後ろのページを御覧いただきますと、6ページ目になります、美里町の地域資源ということで、こちらは社会福祉協議会のほうから見た美里町全域での状況を、その地域資源として捉えているものなどを一覧化したものでございます。

一番その地域のところに根差したところとしては、福祉活動推進員という一人一人のところ、委嘱状を交付しているものと、それから地区社協という住民の方々が主体的に地域福祉活動を進めるための団体と組織ということで、組織化されたものがございます。これが美里町全域に設置がされているという形で、小牛田地域が5つの地区社協、そして南郷地域につきましては11の地区社協ということで設置をしているところでございます。

そこから地区社協の方々の中で会長、副会長の方々と組織する連絡協議会、地区社協の連絡協議会というものもございまして、その上町域、町の範囲としましては、その中でもいろいろ

な福祉活動をやっている団体さん、グループさんであったり、それから当事者の団体の方々と共に今地域活動を進めているというところなんですが、本日テーマでいただいております健康づくりというもの、これは社会福祉協議会のほうでもどのように捉えているかといいますと、地域活動、地域づくりのまず進めていくための一つの手法、手段というふうに捉えております。

具体的にここから社会福祉協議会が行っております事業のほう、それから委託を受けて行っております事業等を御紹介していきたいと思います。A3判のカラーの資料を御覧いただければと思います。

先ほど私の話の前段で、地区社協さんであったり、各行政区のエリアの話もちょっとさせていただきましたけれども、今回このお話を頂戴したときに社協としての視点からいきますと、その人方々、町民の方々が暮らすエリアですね、暮らしの範囲というところでどのような事業、活動が社会福祉協議会行っているかというものをこれは図式化、イメージ化したものでございます。左側に行けば行くほど個人ですね、個々人のもの。それから、右側に行けば行くほど町域であったり学区、小学校区だったり行政区、町全体というふうな形で、その中でどこをターゲットにして私たちが事業活動を進めているかというものでございます。

ちょっと厚い資料のほうで、資料というものを御用意させていただきました。ここも最後のページ、31ページ目まであるんですけれども、こちらは全て御紹介をしていくと、せっかくの今日意見交換というところでございますが、私の話のほうと、それから映像のほうで見ていただくものも御用意してますので、そちらは大体ここから15分ぐらいで概要のほうをお話しさせていただいて、あとの残りの時間は意見交換ということで自由に御質問等々いただければというふうに思っております。

まず、またカラー刷りのほうの資料に戻っていただきますと、一番初め、自分・家族という左側のエリアのところですが、その中で黄色で表記しているのが町社協の独自の事業でございます。会費を財源としているもの。それから、水色表記をしているものは町からの委託を受けて行っている事業ということで、御覧いただければと思います。

まず、水色のところで、自分・家族のエリアのところであらう体操ということで、チラシ、Y o u t u b e ということで載せておりますが、こちらは町からの委託事業、生活支援体制整備事業というものがございまして、介護保険事業の財源の中での地域づくり事業というところでございますが、その中で気軽に自宅だったり、それから1人でも、あとはグループでもできるような体操ですね、そちらをチラシとY o u t u b e、動画ですね、こちらを作成してホームページ等々に掲載をして、今啓発を行っているところでございます。やはり委員長様のお話

にありましたとおり、コロナ禍になってから自宅から出るのがおっくうになったり怖くなったり、そういった方々、高齢者の方々を中心にやっぱり多くなっているというところもございまして、気軽に始められるところという部分でも、こういったものを作成して広めていっているところがございます。

また、その隣の身近な範囲、それから地縁の範囲、学区の範囲というふうなところでは、大きくいきますと、これも町のほうから一部を受託しておりますが、いきいき百歳体操というものがございます。これは長寿支援課さんが主管となって今進めているものでございますけれども、行政区、自治会をエリアにいきいき百歳体操を地区の集会所等を会場に行っていきたいと思いますというもので進めているものでございます。DVDですね、映像のほうを作って、そしてそれを見ながら住民の方々がその集会所に通ってきて体操をするというふうなところで、こちら社協のほうではそこをバックアップ、一緒に進めていきたいと思いますということで今臨時の職員、週2日3時間勤務の臨時の職員と、こちら生活支援体制整備事業でのコーディネーターと共に中心になって、町と一緒に進めていっているところでございます。

こちらの実績等々につきましては、資料の10ページから16ページ、15ページを御覧いただきますと、令和2年度からお試し会というふうな形で各行政区等々で行っている状況等ございます。令和2年度は7か所、令和3年度は21か所、令和4年度は今現在7か所ということで、各団体さんであったり行政区、地区社協さん等々で、どんなものかというのをまずは分かっていたかないと、まずそこからかなというところでのお試し会ということで、長寿支援課さんと共に今進めているところでございます。

そのお試し会の実施状況は15ページと、それから16ページのA3判見開きのところでは、今現在そこから各行政区に根づいて、地区の住民の方々が主体となって自主的に活動されている実施状況というのが、今地区的にいいですと12個あります。行政区の連合体で開催をしているところもございますけれども、この効果が現れてくるのが大体週1回程度、定期的に行っていくのが望ましいというふうな形で、高知県で生まれて全国に今広まっている体操ですけれども、そういったところは今現在66行政区、今美里町にありますけれども、これが全て何らかの形で何かしら健康づくりであったり、介護予防、それから皆さんも御存じのとおりフレイルという今言葉出てきてますけれども、虚弱な状態を防いでいくような、そういうふうなところにつながっていけばと。やはりお茶飲み会という、今まで行っていた地域活動が、住民の方々がやっていたものが、このコロナ禍で人が集まるですとか、会食をしたりとか、そういうふうなのがなかなかできないというふうなところで、でも高齢者の方々も閉じ籠もり予防ですとか、誰か

と触れ合うことを何とか地域の中でつukれないかという地区社協の方々であったり、行政区長さんだったり、民生委員さん、地区の役員の方々ですね、いろいろ悩んでいらっしやって、そういったところで町と共に今社協のほうではこのいきいき百歳体操を、お茶飲み会というスタイルではなくて介護予防、健康づくりということをテーマに、じゃあ集まるというのはどうですかと。お茶1本持ちながらみんなで集まって、静かに体操したりとかして、1時間、1時間半ぐらいで、じゃまた来週ねということでお帰りになるという、そういうスタイルを今コロナ禍になってから、少し路線のほうも変更しながらやっていきたいというふうに思っていたところでございます。

やはり集会所でも、そこに皆さん歩いて来るのが主で、歩いていくだけでももう健康づくりなんですね。そういったところで体操しなくても、そこで来るだけでもいいんだよというふうな形、気軽に進められればなというところですよ。これがいきいき百歳体操と。

それから、次が地域づくりによる介護予防推進事業、これはラジオ体操であったり、3・3・10体操と書いていますけれども、これはうちのほうでささっと体操と、みさとなんですね。3・3・10で。これを何とか広めていくのも一つじゃないかと思っていたところなんですけれども、合い言葉としてですね。こちらの資料が17ページからになります。ラジオ体操のほうは令和元年度から行っておりまして、何か介護予防、健康づくりといったときに一番最初に思いついたのが、そのラジオ体操だったんですよね。誰でも分かるなと。誰でも体が自然に動くというふうなところで、そういったところでDVDだったりCDを作成して、地域のほうに広め始めたのが令和元年度からでございました。

3・3・10体操のほうも、百歳体操も、あとやっている様子を御覧いただくんですけども、ちょっと長いんですね。DVDを止めればいいんですけども、「やっぱりちょっと長いからもう少し簡単なのない」というふうな住民の方々からお話いただいたこともございまして、じゃあ3・3・10体操、ささっとできるような、そういったものをいかがなのかということで、これは後ほどお話をする元気塾という体操教室の先生の協力をいただいてつくったものなんですけれども、ストレッチとか簡単な筋力トレーニングというふうなところでつくったもの、今そちらのほうも同時に進めていってるところでございまして。いろいろな切り口から、健康だったり、体を動かす機会ができればなということでつくったものでございます。

それから、少し飛びまして、黄色の表紙の真ん中ですけども、地域福祉笑楽校ということで集いの場における福祉学習会としております。資料のほうは23ページからチラシがありまして、25ページがその実績という形ですけども、地域の出前講座であったり、地域のほうで何

かしたいんだけど、もうどういうふうにしたらいいたろうというのの御相談に今お応えしている事業がこれでございます。申請件数だったり参加人数等々が出ておりますけれども、やはりコロナ禍になってからぐっと減っております。ただ、開催件数は減ったとしても、申請件数とか開催件数は減ったとしても、相談件数のほうは少しやはり伸びてきております。どんなふうにしたらいいたろうかというふうな御相談、そういったところに丁寧に、先ほどの御紹介したDVDだったり、そういったものを御紹介しながらこちらのほうで関わりながら進めているところでございます。

それから、一番右端カラーページの右端のほうで、みさと元気塾という水色の囲みがございます。これも町からの委託事業でやっておりまして、この資料が26ページからになります。こちらは月、木、火、火ということで、初級、上級でこれは町全域を対象に社会福祉協議会が行っている介護予防体操教室のものでございます。町からの委託事業です。27ページがその実績というふうな形で載っているんですけども、ほぼ定員が25名、15名のところにほぼ毎回定員どおりの申込みをいただいて実施をしてきております。申込者の状況ということで円グラフ等々も示しておりますが、65歳以上からの方ということで区切らせていただいて実施をしているもので、年代そのような状況になってきています。

そこから、この元気塾は6月に始まって、大体11月末で終わってしまうんですね。年10回というところですので。そうすると、それ以外の部分、1年で考えればあと半年であったり、この元気塾に來れなくなったり参加しなくなった後、じゃあどうしていいかというのを私たちもやっぱり考えました。そこは独自事業のところでは27ページの下にございますけれども、自主サークルの活動支援というところで、これが社会福祉協議会の仕事かなと思っております。事業として関わる部分だけではなくて、住民の方々がやっぱり自主的に自発的に健康づくりであったり、そういったものに興味、関心を持っていただいて、住民の方々が主体的に動き出すと、そういった支援のほうをさせていただいて、今3つのサークルが前年度からできております。南郷地域、それから本小牛田コミュニティセンターというふうな形で、それぞれこの元気塾に参加されていた方々が主で、今自主的に行っているということです。これも後で映像のほうで御覧いただければと思います。

それから、最後でございますけれども、カラー刷りのほうの一番下に大きい矢印がありますが、その1個上の生活支援体制整備事業ということで、こちら町の方からの委託でございます。こちらは地域づくりを一人一人の困り事から地域づくりを進めていく事業ということで、介護保険財源のもので、今日、高橋生活支援コーディネーターも同席しておりますけれども、

地域の中でいろいろな集まりだったり、それから地域のつながりだったり、そういったものを私たちはお宝というふうな形で呼んでいるんですけども、そういったものを地域のほうに出向いて、その活動がすごく素晴らしいことで、その地域の方々のお宝なんですよというのを当事者の方々にもお伝えしつつ、町内にこんな形でつながりづくりだったり、いい活動をやっているところがありますというのを30、31ページのところで「おげんきですか。」という広報紙で、年4回ほど住民の方々に啓発をして行っておりまして。こちらは啓発広報紙だけではなくて、住民の方々に集まっていたらいての啓発事業等々も含めて行っています。

やっぱり住民の方々も最初組織とかサークルさんとかをつくっても、最初はすごくモチベーションが高くてぐーっと来るんですけども、それが少し時間がたていきますとマンネリ化だったり、少しモチベーションが落ちてきたり、そういったところを継続的に私たち支援していくことで、住民の方々の活動をより長く太いものにしていければなということで、今関わりをしているところでございます。

口頭でのお話のほうは以上とさせていただきます、今から4分と3分の動画を具体的に見ていただきまして、先ほど元気塾とか、それから百歳体操、それからラジオ体操、あとは地域の通いの場の支援ということで行っていたのと、自主サークルですね、そういったものがどのようなになっていったかというのを映像で御覧いただきたいと思います。

まずは元気塾、百歳体操、ラジオ体操、地域の通いの場ということで御覧いただければと思います。これは実際にこのためだけにつくったのではなくて、地域の方々に見ていただいています。

定期的に、年2回体力測定も行ってですね、自分のデータを比較して見るというのもモチベーションのアップにつながっています。

(映像視聴)

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　これが地域のほうで、こういった活動が町の中に、健康づくり、介護予防でありますかというのを御紹介したものです。

ここからは元気塾の今現在参加されている方々に、自主サークル、こういった形でやっている方々がいますよと。この元気塾が終わっても、こういったことで地域のほうでやっていきますよというのを御紹介したものです。

(映像視聴)

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　ありがとうございました。

以上が社会福祉協議会の町のほうから委託を受けている事業と、それから独自事業の部分と、映像で見ていただきましたとおり、事業だけではないところが社会福祉協議会の取組なのかなと思っております。これからどう地域の中に全体に波及させていったらいいのか、地域の中に広がりを見せて、つながりづくりがそれが健康づくり、介護予防が最終的には地域づくりのほうにつながっていくと。一緒に顔を合わせて関係性が築かれていったりというふうなところを、すごくその部分も大事なかなというふうに思っております。

少し説明の時間が長くなりましたが、以上で、こちら社会福祉協議会からの御説明を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（柳田政喜君）　ありがとうございます。

それでは、ただいま社会福祉協議会さんのほうから活動状況をいろいろ報告していただきました。そうですね、私たち、資料で見るよりも全然、すごいいろいろ地域に根差した活動をしてもらっているということで、すごい安心したところでございます。本当、私たち、特に私なんかはまだ一応50代ですので、なかなかこういう会合のほうには顔を出す機会もなくて、なかなか分からないところも多いものですから、今回本当に大変勉強になりました。

それで、町のほうの委託事業のほかに、社会福祉協議会さんのほうで独自の事業があるということでしたけれども、皆さんのほうから何か興味のある部分で、こういうところはどうしているのかなという部分で質問等ございますか。例えば先ほど説明いただきました中でですね、モチベーションの維持というのが、やっぱり一番の課題になってくるのかなと。ただ、先ほど説明いただいた中で、レクダンスですか、あれは10年行っているということですのですごいなと思ったんですけども、やはりそういうモチベーションの維持というのが一番の課題なのかなと思ったところでございます。レクダンスですね。そういうのはどうやって維持してきたのかなと。私たちもそういう部分、どのように支援していったらいいのかなというのを考えているところなんですけれども、そういう例えばレクダンス以外でも、そういうモチベーションを維持するためにどのような取組をほかにされているか、何かありますか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　今、レクダンスさんは自主サークルさんから始まっているところなんですけれども、あといきいき百歳体操というのも今始まったばかりで、行政区の中で進めていますけれども、そこもやはり続けていくためだったりとか、コロナ禍で一時中断し

たりとか、ちょっとお休みしましょうとか、そこからまた再開するのも地域の方々すごくエネルギーといいますか、そういったものも必要になってくると思うんですね。

そこで今関わっている生活支援コーディネーターの高橋ゆかりの関わりについて、少しお話を。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君）モチベーションを上げるところは、本当私たちも課題だなと思っておりまして、毎回は訪問はしないんですけれども、通いの場が立ち上がって終わりではなくて、定期的に訪問するように心がけておりました。あとその中で、活動するに当たっていろいろ問題が出てきたとか、参加者さんたちが少なくなってきたとかといったときは、相談いただいて、一緒にどうやったらいいか対策を一緒に練ったりもしておりました。もう一回チラシまいて、参加者が増えるように募集かけようとか、あと広報紙に載るというのも参加者さんにとってはモチベーションの一つになっているのかなというふうに思っておりまして、社協だよりだったり、「おげんきですか。」などに掲載のほうさせていただいております。

○委員長（柳田政喜君） ありがとうございます。皆さんのほうから何か質問等ございますか。

伊藤委員、お願いします。

○副委員長（伊藤牧世君） 私は何点かあるので、1つずつお願いします。

先ほど自主サークルというところで、活動支援というところがありました。その中であと映像と合わせていくと、改善センターだったり、いろいろなところでの活動があるんですが、気になったのが、例えば椅子がパイプ椅子で不安定な状態で体操しているかなというのと、あとマットとかそういった道具、ストレッチやったりするときに、そういったものというのはどういうふうにされているのか。結局、高齢の方だと転びやすいんですよね。パイプ椅子での体操は。なので、そういったところはどうのような問題点があるとか、こういったところが、例えば皆さん、結局自分でヨガマットを買ってくるとか、そういったところまでもいかないとは思うんですね、みんながみんな。ですので、そういった対応とかちょっとお聞きしてもいいですか。

まず1つです。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） そうですね、自主サークルさんですと、先ほども見ていただいたように、中の方々同士でやっているというところで、誰か職員がついてという形ではないので、やはりリスクマネジメントというか、危険なところの防止とか、そういったものはやはり課題にはなってきます。物自体、やはりパイプ椅子よりもこっちの椅子のほう安定性はあったりとかはするんですけれども、その中でもささっと体操もそうなんですけれども、あま

り危険じゃない体操、とにかくこちらのほうでDVDを作るときにも、そこは先生のほうともやり取りして作ったところがございます。

あとはそうですね、けがをしないように保険などを皆さん掛けていただくように、こちらのほうからは標準保険ですね、関わりを持たせていただいているのと、あと本当に危険のないように、無理のないところでやっていくのが一番継続の秘訣ですという話も差し上げておりますけれども、ハード面のところは若干課題はあるところはあると思います。

○副委員長（伊藤牧世君） ありがとうございます。では、次。今、保険の話も聞こうと思ったんですけども、加入促進されているということなので安心しました。サークルというか、元氣塾等では体力測定とか定期的にやっているかと思うんですが、自主サークルになった場合にまた続きで体力測定をやりたいといった場合とか、どのような形が取れるのか。もしくはやはり予算の関係上とか行事の関係でできないとか、そういったところの状況を教えていただければと思います。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） そこは少し詳しく。じゃ、高橋のほうから。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） 元氣塾も自主サークルも体力測定ということとでよろしいですか。

○副委員長（伊藤牧世君） あと、やはりそういったのを一度経験すると、私もやってみたいとかとやっぱりあるかと思うんですね。教室だと成果のためにどれぐらいというのはやるんですけども、やはりその方々からサークルだと、元氣塾に入ってなくても多分サークルに今加入している方もいらっしゃるのかなという感じは受けるんですが。そのあたりも教えていただければ。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） 元氣塾の自主サークルのほうで体力測定というのは想定はしておりませんで、ただ、いきいき百歳体操のほうでは体力測定のほう定期的に行っております。1か月、6か月、1年後という形で定期的に関わらせていただいております。なので、地域のほうでも集会所を会場にして体力測定のほうはできるのかなと思います。

○副委員長（伊藤牧世君） じゃあ、その次いいですか。続けていいですか。あとは身体的な状態があまり芳しくないとか、そういった方も多分、膝が痛いとか、肩が痛いとか、上がったたり下りたりできないような方も参加されているかと思うんですね。そういったときの体操とかの対応とか、そういったところは特に気になるのが、自主サークルになった場合のやはり先ほどのリスクマネジメントと一緒に、危険度が高まっている状態とかはどういった促し方をされているのか。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） 百歳体操のほうは、実際に体調が悪い方も来たりします。私たちのほうでも体操を無理しなくていいから、顔を合わせるだけでも、地域の皆さんと顔を合わせるだけでもいいので、出てくることも介護予防、健康づくりの一つだよというふうにお話をさせていただいておりました。なので、皆さんたちも体調悪いときは自分で判断して休むようにされてますし、体操の途中でも、ここまでできるけどちょっとこれ以上は無理という判断も、皆さん一人一人管理できるように、少しずつですけれども、できている状況かなと思います。

○副委員長（伊藤牧世君） コロナ禍の対応も含め、多分コーディネーターの方1人では、だんだん広がっていくことを想定していると、すごく手が回らないと思うんですね。いろいろな、そのときに応じながらやはり注意事項があったりとか、こういうところ気をつけてほしいとか、いろいろなことが出てくると、すごく広がりを持つと今度は本当に手に負えなくなってくるのかなと。いい反面、負担が大きいかなと思うんですが、そのあたりではどのような考えとか、こうあったらいいとかというのがあればお願いします。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） そこは私から。はい、おっしゃるとおりなんです。今日は生活支援コーディネーター1名、1名しかいないんです、生活支援コーディネーターは。それは介護保険財源の生活支援体制整備事業という中で設置をされているものなんですけれども、当然高橋ゆかりだけではどうにも、この2万4,000人の美里町を1人でというのはなかなか無理なところで、委託事業でやっている部分と、それから独自の事業と、こちらは町社協の職員、嘱託の職員と、それからいきいき百歳体操につきましては、今年度から町のほうが主で進めるんですけれども、やはり継続的な支援というところで週2回の3時間勤務の臨時職員を1名、予算をつけていただいております。その職員と嘱託職員が今主に地区の、今現在やっているんですね。いきいき百歳体操をやっているところに、どうですか、今日も皆さん来てましたね、いいですねというモチベーション上げを今していつているのと、あと高橋ゆかりのほうは、新しい新規のところの開拓であったり、あとは地域のお宝のところに行ったりというふうなところで動いております。

ただ、じゃ何人いれば足りるんだという話になるんですけれども、少し地域活動を一緒に進めていく、いい表現かどうか分からないんですけれども、やりたいと思っている人たちの火が立ったところに、くすぶっているところに風をあおいでいって、それを大きくしていって、それをずっと続けて火が続いていくようにする、その3つの多分役割というのがあると思うんですけれども、その3つの役割をしたときに今の人員ではやはり少し不足する部分があるのか

なと思っています。幾ら最初だけ頑張っただけであつとあおぐ人がいても、その後あおぐ人がいなかったら消えてしまうんですね。そこかなというふうに思っております。

○副委員長（伊藤牧世君） それに続けてですみません。そのもちろん人的なものもすごく必要だなというところと、あともう1点が、やはりそれに係る予算的なもの、自主サークルさんが自分たちでお金を出し合って、例えば賃借料かかっているかどうか分からないんですけども、そういったものとか、活動費というのを補っているのか。会計が入ってくると、また組織化すると、それは嫌だという、多分高齢になればなるほど多分組織化をして、自分たちでやりますよが難しいのかなとは思っています。そういったところでの対応として、お金とその流れというか、細かいところすみません。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） 確かにお金の部分もハード的なもの、さっき言った物を買ったりとか、用品を買ったり用具を買ったりというのはあるんですけども、今のところはそういったものをあまり使わない、自分でやってるサークルさんとか教室で使っているものを自分で持ってきて使ってらっしゃる方、さっきのボールとかを使った運動とかというのはまさしくそれだったりとかするんですけども、そういったところを今何かで支援するというのはなかなかできずにいます。ただ、組織化をして、それが小地域福祉活動につながっていくという活動であれば、町社協のほうで行っている小地域福祉活動支援事業という助成事業がございまして、それを組織化、ちゃんと規約をつくって予算もつくって会員さんも会費を払ってというふうな形であれば、その方々も活用のほうをしていただけるかなというところなんです。ただ、本音を言うと、皆さんそうやって役を持ったりとか、サイクルするのも誰が申請書を書いて部屋借りるとかですね、上に立つ方、その方々をやはり見つけていたりとか、そういう気持ちになっていただくような支援というの、今高橋ゆかりが中心になって、あと地域福祉笑楽校で田村紗希のほうがやっていますけれども、そういったところがすごく大変というか。そこが私たち、でも本来進めていくところ、大事な仕事なのかなと思ってやっています。

○副委員長（伊藤牧世君） それに付け加えていいですか。今の地域の中での活動を、そういうふうにリーダー的存在を支援しなければならないといった場合に、今そういった形はやはり生まれてきてますか。じゃあ、やってみますよというか、取りまとめしてあげますよみたいな方って、やっぱり育ちますか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） どうだろうね。いきいき百歳体操の始まるころの何かそのもやもやを、ちょっと話してみて。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） そうですね、百歳体操のほうの話ですと、

百歳体操は行政区自治会のほうで進めているというところもあって、区長さんとか地域の役員さんたちの思いも必要になってきております。いいよとなると、結構すぐ立ち上がりになってくるんですけれども、でもその中でもそういう役を持ってない人からやりたいという声が上がって、区長さんたちに働きかけて立ち上がったという行政区さんもあるので、あと活動のほうはやりたいと言ってくれた方々が中心になって活動のほうもやっていたりというところもありますので、全くいないわけではありません。

○委員長（柳田政喜君） よろしいですか。

ほかに皆さんのほうから質問は。では、平吹委員。

○委員（平吹俊雄君） 数点。まず1つは、体力測定ですけれども、これはやるたびに測定するわけではないと思いますけれども、どのくらいの頻度でやっているんですか。体力測定。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） 年2回です。始まってすぐと、あと終わりのほうとですね。なので、大体年度でいうと7月とそれから10月頃ですかね。そこで自分の数値がどのくらいになっているかと。相手と比較するのではなくて、自分の数値が半年前とどうかという比較をさせていただいています。

○委員（平吹俊雄君） その体力測定で、今ありますよね、例えば体力が何歳、何ていうのかな、あれ、何かその年齢というか、ありますよね。ああいう測定なんかはしないんですか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） それもあります。それもあるというか、平均というか、先ほど伊藤議員さんが言っていたとおり、年齢による基準値というのがやはりありますので、それとも比較というかもしますし。

○委員（平吹俊雄君） 例えば体力が、今75なんだけれども、実際はもっと若く、例えば65になってるよとか、あるいは逆に80になってるよというような、そういう興味もあると思うんですけれどもね。人が集まるためにそういうような仕掛けをつくって来るような形もいいのかなと今思ったんですがね。その辺もちょっと考えてもらえればなと思って。

それで、この百歳体操の中で最高齢というか、平均年齢というのは何歳ぐらいなんですか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） 高橋から。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） 高年齢の方は、体験会をしたときの最高年齢の方は92歳の方が体験されております。

○委員（平吹俊雄君） どうなんですか、体力的に。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君） ちょっと難しいところもあったので、立ち上がりとかがあるんですね、スクワットのような形の体操も入っておりますので、そういった

ところはちょっと無理しないように声がけをしながら。

○委員（平吹俊雄君）　そういう方は80歳になりますよとかという、これをやることによって、ある程度寿命も健康で長生きするというようなことで。そういうのも広報とかそういうのに、役場でやればいいのかなどと思ってるんですけども。

あと、資料の10ページに作業療法士等が時々訪問してということで、ポイントを教えているようですけども、これはこっちから要請したときにその方が来るんですか。それとも、定期的にやるんですか。その辺はどうでしょうか。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君）　町内の福祉事業所の福寿さんのほうに作業療法士さんがおまして、この百歳体操推進についても協力をいただいております、定期的に訪問していただいて指導のほうを。

○委員（平吹俊雄君）　それは各行政区ですか。

○社協生活支援コーディネーター（高橋ゆかり君）　はい。百歳体操を定期的に行っている行政区に定期的に訪問して、指導のほうをしていただいております。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　長寿支援課さんのほうから福寿さんほうにお話をして……。

○委員（平吹俊雄君）　会社は町外。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　町の中の駒米にある事業所さんです。福祉事業所さんです。

○委員（平吹俊雄君）　あともう1点ですけども、元気塾のところで26ページですね、講師さんが株式会社マルシンクということなんですが、初めて私、勉強不足で初めて見るわけですけども、これは専門の高齢者というか、そういう健康寿命を専門とした会社なんですか。どういのでしょうか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　そうですね、健康運動指導士という形で資格を持っていて、仙台の専門学校で非常勤講師を務めていたり、あとは仙台市、富谷市の健康教室の体操教室の講師も務めていただいている実績のある会社さんで、講師の先生です。

○委員（平吹俊雄君）　専門講師ということですか。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　はい。

○委員（平吹俊雄君）　分かりました。ありがとうございます。

○委員長（柳田政喜君）　ありがとうございます。時間のほうも……。 （「1つだけ」の声あり）
では、鈴木委員のほうからどうぞ。

○委員（鈴木恵悦君）　すみません、資料の27ページのグラフで、申込者ですか、男女別でほとんどが女性というデータですね。それと資料の後ろのほうの写真を見ますと、やはり女性が多

いと。実際そうなんでしょうが、お茶っこのみとかというのは、女性の人たちが雑談的なのが好きで現実はどうなんだろうけれども、男性の申込みというか参加の促進とか、そのことについては何か考えていれば教えていただきたい。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） 何につけても男性の出席率というか、参加というのがなかなかやはり難しく、あえてここ男女比率も出したところだったんですけども、健康づくり、体を動かすことというふうなテーマでただぼんとやっても、男性は出席していただけないですよね。そんなの俺、田んぼとかやってるから大丈夫とかですね、体動かしているから大丈夫、その筋肉とはまた別なものなんですというふうな話をしても、これはなかなか分かっていただけない現状もあってですね。

であれば、例えばなんですけれども、こちらのほうでやっている元気塾での健康講話というのも年1回やっていて、元気塾に参加していない、それ以外の方々を対象にした啓発事業なんですけれども、元気塾ってこういうものなんですよというのの対象を、男性のグループとかに絞って、例えば男性陣が多いような団体さんに絞って、もう強制的にそういうふうにまず受けていただいて、まずその入り口ですね、きっかけをつくっていくこととか、そういったことをしないとまず無理なのかなと思っていたところでした。ある意味、あまり関わりのない団体さんとか、そういったところに投げかけというか、呼びかけとかをして、まずは少し入り口というか、きっかけを何かしらのものを探っているような状況でございます。関心の高い人は、すごく関心高いんです、男性は。来ている方。ただ、そうじゃない方のほうが町民の方々は多いような状況です。体が動かなくなってから始まるんじゃなく、元気なうちから始まるのがというふうなところを分かっていただけるような仕掛けが今後できればなど、検討していきたいと思います。

○委員（鈴木恵悦君） ぜひよろしく。

○委員長（柳田政喜君） ありがとうございます。（「ごめん、1つだけ」の声あり）もう時間のほうが。じゃ、吉田委員から。最後で。

○委員（吉田二郎君） 本当に健康でいるうちは健康のありがたさというか、そういうの分からないというんだか、病氣してはじめて健康のありがたさ、大切だなということを、ならないようにこのようにいろいろなあれを参加してねとか、やってねというんだけど、そこに踏み込むまでの、まあ健康だから、大丈夫だからとか。話あれですけども、私たちこんなにコロナの感染拡大しなければ、この間、静岡県の伊豆市というところと小山町かな、のところに視察研修というか行く予定だったんだけど、今こういうふうに蔓延になってしまったため

にちょっと見合わせているんですけれども、あっち行って聞こうかと思ったけれども、マイレージというポイント制というのは静岡のほうが何か取り組んでいるのが、これは自治体の問題ですよといえそうなんだけれども、社協ともこういうふうに、その内容はもっと分からないんです。そういうふうな取組方をしてるんだけれども、ただそれがいいか悪いかは私も、そのためのあれじゃなくて本来は違うんだよとなれば、そういうふうになってるんだけれども、やっぱり人間心理で欲とか持っているから、やっぱりこういうふうにためていくという心のあれがあるが、どのような内容かなと。

あともう一つ、サークルでも何でも活動するときはやっぺと言って息の合った人たちが集まってくるんだけれども、10年、15年していくと、後から入ってくれる人とうまくいけばいい団体なんだけれども、もうだんだんと尻すぼみというか、あるいはこれも先ほどお話しした、誰が面倒見てける人がいんのや、リーダーシップなる人がいんのやとなっていくと、ある程度の年代になってくると、こっちとあっちとってそういう御苦労もあるんでないかなと思うんだけれども、そこも聞きたかった。

最後に、資料をせっかく社会福祉協議会から長寿支援課を通して、この介護予防に資する住民主体の通いの場の一覧というやつが、1から55までのリストをもらったんですけれども、この団体さんというのは社協さんに登録した人たちのサークルなのか。御支援というのはどのような、本当に来てるのかなということを聞きたかったんですけれども。

○委員長（柳田政喜君） すいません、よろしくお願いします。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君） 少し短く。マイレージの話はちょっと私たちも、それが多分モチベーションを上げていくといいますか、多分続けていくための一つの方策の手段なのかなと思っておりまして、その関係はちょっとまだ社会福祉協議会でも話は出ておりません。

あと会員の方々が何十年もたって、来ている方々の更新というか、そういったところですけども、スクラップビルドでももしかしていいのかもしれないなど。それを続けていくこと自体が、一つ目標ではありますけれども、その方々が行き詰まったときに自宅でもできるというふうな形であったり、元気塾の町域のものに参加できてたけれども、それに来るのがだんだんひどくなって、今度は地区でやっている集会所、一番近くでやってるいきいき百歳体操に行けるようになったよとか、何かそういう段階を踏んで受け止められるような受皿ができていけばいいのかなと思っていますのと。団体さんがもう運営するのが難しくなったというときには、1回解散して、また気の合う人たちで、残るのもいいですし、そこから抜けるのもいいですし、そこも自由で、新しいものがどんどんできていって、私はここに入ってたけど、やっぱりこっ

ちのほうに入るかなという方、そのような方ができてもいいのかなと。実際に元気塾に来ていて、来れなくなって、車の免許返したんだよねといった方が、地区の集会所でやってるいきいき百歳体操に行ったらどうですかという、ああ、じゃあそれに行こうとなって、段階で変わっていく方もいます。

あとは通いの場、最後ですね、通いの場の関係ですけれども、50何個はコミュニティセンターに登録しているサークルさんで、そのサークルも一つ私たちの捉え方としては通いの場なんですよ。そこに週1回通ってきて、何かする。体を動かすだけでなく、そこに通ってきて何かをするという形ですので、コミュニティセンターさんにそれは多分長寿支援課さんが調査をかけて報告いただいたのが50何個ということで、その中から地域活動として主にやっている団体さんには、私たち社協も入って活動を支援していくというふうな形でやっています。

○委員長（柳田政喜君）　ありがとうございます。

皆さんのほうからいろいろ質問していただきまして、皆さんも社協さんがちょっと口籠もったところではこういうのを欲しいと思っているというの、皆さんそれぞれ感じたと思うんですけども、やはり予算的なものだったり人材的なものだったり、そういう部分にはなかなか苦労しながらやっていただけているのかなと感じたところでございます。今後その辺をぜひ皆さんで検討していきたいと思っているところでございます。

では、皆さんよろしいですかね。最後に社協さんのほうは何か、これはぜひやってくださいという要望ありましたら、それを承ってまいりますので。何か希望ありましたら。

○社協事務局長（山口保広君）　話合いの途中でも話題になったり、映像にも写ったんですが、美里のラジオ体操御存じでしょうか。（「はい」「一応」の声あり）ぜひ御活用いただければと。委員会のお集まりの前に、じゃやりましょうとか。本会議の前はちょっと無理でしょうけれども、ぜひ1枚お帰りに差し上げますので、ぜひ御活用いただければと思っております。

○委員長（柳田政喜君）　健康に関しては今回だけでなく過去にも取り組んだことがございまして、私もその体型直しなさいと前委員長からさんざん言われてましたので、ぜひ活用させてもらいたいと思います。

○社協地域福祉課長（永沼威雄君）　もし毎年こういう形で行っていただけるのであれば、いろいろな形で私たちも課題がたくさん出てくるかと思っておりますので、もし機会が時間がございましたらお願いしたいと思います。

○委員長（柳田政喜君）　私、農業委員しているとき、農業委員と総務産建の交流会、年に1回設けたりしてたんですね。私たちもいろいろなところとそういうものをぜひ設けたいなと常々

話してましたので、今回本当にいい契機になったのかなと思います。今後ともそういうところ考えさせていただきたいなと思っています。本当にありがとうございました。

では、最後に、副委員長のほうから最後のお礼の挨拶をお願いします。

○副委員長（伊藤牧世君） 本日は本当にお忙しい中、ありがとうございました。大変現場に即した住民の姿というのが見えてきた感じがします。そしてまた、同じ方向性を持ちながら、住民の皆様がこれからも健康で健やかに生活できるように、知恵を出し合いながら、そしてまた社会福祉協議会の力をお借りしながらも頑張っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は大変ありがとうございました。

○事務局次長兼議事調査係長（齊藤美穂君） 本当に短い時間の中でしたが、どうもありがとうございました。

これで閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

午前１０時３３分 閉会

令和4年8月22日

教育、民生常任委員会

委員長